

総務常任委員会のテーブルにおける参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光スポットの魅力はガイドブックやネットで調べられるが、観光スポットの点と点を結ぶる、間にある箇所を盛り込んだゲームにできればよいと思う。 ・金沢には、例えば浅野川の七つ橋があつたり、兼六園の中にも段差や坂がたくさんあつたりと、目立つところ以外にも魅力のあるポイントがたくさんある。 ・各スポットに2次元コードを設置して、実際にいろんなところを回る楽しさを持たせられるとよい。ガイドをしているが、クイズなどもまぜるとお客様の食いつきがよいと感じる。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象を子どもにするか大人にするかをはっきりさせて内容を考えた方がよいと思う。ボーダゲームであれば、子どもを対象にしてつくってみてはどうか。 ・小学生が見たところをあとからどういうものだったか確認できるゲームがよい。子どもたちは現地にいつも行けるわけではないので、行ってみたいという意識を持たせられ、学習にもなるものがよい。 ・金沢は、伝統工芸や食文化が豊富なほかにまちなかの彫刻など魅力的なところがたくさんあるので、ありきたりな観光名所以外も取り入れてはどうか。 ・板橋区などゲームを実際につくっている自治体があるので聞いてみてもよいと思う。 |

経済環境常任委員会のテーブル1における参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|---|
| 1 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が増え、オーバーツーリズムによって地元住民が疲弊していると感じる。魅力発信の方向性を見直して富裕層にもっと来てもらい、金沢の魅力を大事にしてもらえるような観光に転換できればと思う。その際には、金沢でしか得られない深い記憶をつくることがいいのではないか。 ・現在、0歳や1歳の人口は3,000人を切っており、観光業を経済の柱と考えたときに、10年後、20年後を見据え、子どもたちに残していく金沢はどうするか考えていかなければならない。 ・まちなかは、以前は地元の人でぎわっていたが、現在見かけるのは外国人ばかりになっていて、まちなかにお金が落とされているのか心配である。 |
| 2 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船で金沢に来た外国人観光客は観光ルートが決まっていて、兼六園やひがし茶屋街へ行く人が多くなり過ぎているので、内灘へ来てもらえないかと考えている。その移動手段として、外国人には自転車の好きな人が多いので、シェアサイクルまちのりを活用できると思う。 ・内灘は能登半島地震による液状化被害がひどかったが、金沢での観光に加えて内灘の状況を見てもうことで観光復興につなげられるのではないか。 |
| 3 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は中国人観光客が炊飯器など高価なものをまとめ買いしてくれて、地元の経済は非常に助かったが、最近のインバウンドは様変わりして、なかなか黒字が出せないことが問題になっている。観光客に買ってもらわないと市民の暮らしのプラスにならないので、売るものをもっとつくらなければならない。 |

経済環境常任委員会のテーブル2における参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|--|
| 1 | <p>【観光政策】</p> <p>オーバーツーリズム対策として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼六園、21世紀美術館などの入場管理が可能な施設では二重価格の導入。 ・飲食代金に少額（50～100円）の協力金を上乗せする仕組みの構築。 ・観光地の案内板や車止めに金沢市デジタルマップの二次元コードを掲示し、利用者から任意で少額の協力金を得る仕組みの構築。 <p>これらを実践することにより、観光地財源の確保や混雑緩和が可能となる。</p> |
| 2 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片町交差点付近のホテルの前に車が止まっており、渋滞になっていることがあるので、市としてホテルに対する指導を行ってはどうか。 ・金沢駅の降車場に長時間駐車している車がある。本来、一般降車場は駅を利用する人がすぐ降りるときやすぐ乗せるときに使用するものだと市ホームページに記載があるため、それができない場合は30分間無料の駐車場にいくように指導をするべきである。 |
| 3 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の補助金を活用し、犀川より西のほうを案内する「Go West project」という活動をしているが、補助金が少額なため、補助の追加をお願いしたい。 ・小松空港の便と観光バスの時間があっていないため、北鉄バスと協議してほしい。 ・車で金沢まできた人は、観光マップをもらうことがないので、デジタル化などを進めてほしい。 ・単なる飲食だけの観光から体験型の観光に転換するタイミングに来ているのではないか。 |
| 4 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢市の国内観光客の数は、京都や鎌倉に比べると多いと思うが、お財布の紐は硬い印象を受けるので、二重価格を導入してもよいのではないか。 ・宿泊税を上げ、観光政策に転嫁してほしい。 |
| 5 | <p>【観光政策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県や金沢市がオーバーツーリズム対策などをどのように考えているのかをしっかりと示してもらいたい。 |

市民福祉常任委員会のテーブル1における参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民との共生が避難に必要だと思う。外国人が身近にいるのに、町内会から除外されているように感じる。外国人住民が災害でひどい目にあわないよう、町内会で救えるようにしたい。 ・結ネットの活用が足りない。能登半島地震で金沢市に転入したが、転入前の市の結ネットのほうが、地震を経験し活用のノウハウがあったため使いやすかった。市は費用面も含め、もっと活用してほしい。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時は医療的ケアが必要だったり、目が見えない、耳が聞こえない、また高齢者など、配慮が必要な人への支援が大事なので、支援を進めてほしい。先日、県が芳斎で行った訓練で、かほく市で要配慮者を対象にした事例設定のような訓練があった。金沢でもそのような研修会をお願いしたい。 ・避難所の使い方の訓練があつたらよい。 ・医療的ケア児の防災デイキャンプなどで、住民に要支援者の方について知ってもらうような取組ができたらよい。 ・避難所でボランティアのスタッフに入れ替わり立ち代わりで対応に困っている現実を目の当たりにして、一般の方の底上げができるような人材育成が大事だと思う。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・穴水町や白山市で国の避難生活支援リーダーサポート研修を行っている。災害時、行政だけでは対応できないため、このようなところで人材育成を図つたらよい。 ・能登半島地震では、町会が違う人が避難所に食事をもらひに来た際、町費を払っていないということで帰らされたことがあった。そういうことがないようになればよい。 ・災害時、マイノリティの方が避難所に移動することは非常に負担になる。自宅の建物がしっかりしていれば一番よいので、耐震や備蓄など自宅における補助を充実してほしい。 |

市民福祉常任委員会のテーブル2における参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・8月の大霖は日中だったため、若手は働きに出ており、地域には高齢者だけが残る状況となつた。こうした地域の実情を踏まえると、避難できる体制にあるのかという課題意識を持っている。 ・平時の備えとして、地域や各家庭ごとに、雨が降った時の行動を事前にプランニングするのが大切。 ・ハザードマップを確認しておき、地域ごとに起こりうる災害を把握するのも大切。 ・大雨の際、用水の詰まりが原因で被害がでることがある。日頃から町会で用水の清掃をする機会を増やすことなどが必要だと思った。 ・金沢市には、春の一斎清掃があるため、これは「防災の一環だ」という意識を持ってやるとよい。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿について、名簿の記載内容と実態にずれを感じている。最新の情報を名簿に掲載するための仕組みが必要ではないか。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・水害ハザードマップアプリ「にげまっし」について、素晴らしいアプリであるため、もっと広げたい。活用法などを高齢者に伝えるような出前講座があればよい。 ・アプリの通知音がうるさいため、オフにしている。音のせいで使われていない現状があるので、アプリは普段から使うものでないと身近にならない。何の通知かを表示するなど、改善してほしい。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分に何ができるのかを自身で把握することが必要だと感じている。例えば、金沢市が支援メニューのチェックシートを作成・展開すれば、自身のできることを可視化できるのではないか。 ・地域の防災活動に従事する人が、所属する職場での理解を得られていることで、日中の勤務時間中でも有事の際は地域に駆けつけることができると思う。そうした、職場が地域活動を行う職員を後押しするような風土ができるとよい。 |

建設企業常任委員会のテーブルにおける参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・小立野地区は、市内でも積雪が多い上に住宅街の道路幅が狭く、雪を置く場所に苦慮している。 ・金沢市の補助金も活用して、業者による機械除雪を実施して排雪を行っている。依頼業者が来て除排雪を実施するまで日数がかかるが、業者への補助は本当に助かっている。 ・当町会では、個人所有と町会所有の小型除雪機を活用して高齢者宅や空家前の市道の除雪を行う取組を始めた。この場合、特定の個人に負担がかかることから、町会から謝金や燃料代を助成することとしている。金沢市では、業者に委託した場合の補助と、小型除雪機購入のハードの補助はあるが、小型除雪機のオペレータ謝礼や燃料代などソフトの支援がない。ソフト支援も考えてもらいたい。 ・これにより、若い世代のオペレータの発掘などが進み、地域を支える協働の取組が進むと思われる。 ・住民と行政が協力して取り組むことで、より実効性のある除雪・防災体制が築ける。特に市道の維持管理に関しては行政の支援が不可欠であり、住民と行政が協力することでより良いまちづくりに貢献したい。 ・水道管、下水管のように道路の下に融雪するための水が流れる融雪管を設置するという方法もあるのではないか。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・昔は雪が降ると朝早くから雪をどかしていた。今は雪かきをやらない人が増えた。20年くらいの周期で大雪が降る。ノウハウが伝わらない。 ・公道の除雪率が、富山市や福井市では8割、9割という話も聞く。金沢は4割を守っている。 ・用水の水は冷たいので除雪に使っても雪が溶けない。ガスを使って水を温めるのは経費がかかる。地下を通せば温度が上がるのではないか。 ・用水にパンチで穴を空けた鉄板を入れることで排雪で用水が詰まることを防ぎ、排雪溝として使えるようにする、という事例もある。 ・「こうすればよい」という情報をどんどん伝えていけばよい。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業用水路を雪捨て場として活用したいが、道路に積もった雪と用水横の防護柵のため使うことができない。農業用水路までの道路の除雪と、防護柵内に入れるようにするため扉の設置をお願いしたい。 ・農業用水路の水を融雪用に活用したい。 ・町内会および家庭用除雪機保有者による町内除雪（市による除雪の補完）に対して謝礼を支払うための助成をお願いしたい。 ・町内会の除雪機購入への助成（10年に一度）に加え オーガ摩耗時の交換についても助成をお願いしたい。 |

文教消防常任委員会のテーブルにおける参加者の主な意見等

| 番号 | 内容 |
|----|--|
| 1 | <p>【中学校部活動地域移行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも人材がいるのか分からぬ ・いたとしてもどこまで権限があるのか いろいろ心配 ・大会があるとしたら中学校単位が多いが、どういう単位でやるのか ・学校の先生が負担が本当に減るのか ・地域クラブでの月謝制だと、続けたくても続けられない生徒が出るのでは |
| 2 | <p>【中学校部活動地域移行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サードプレイスとしての居場所として部活動は大事 ・指導の資格については気になっている ・月謝制だと参加できなくなる生徒が出てくるのでは ・地域移行の前に人数が必要な球技などは生徒をたくさん集めなくてはいけない |
| 3 | <p>【中学校部活動地域移行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域展開後もボランティアで顧問を続けたい先生は一定数いると聞いている ・指導者が異動することで、生徒がついていくことが懸念される ・遊具や道具の転用はしやすくなる ・常勝化するチームが固定され、競う機会がへるのでは |
| 4 | <p>【中学校部活動地域移行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動に「金沢らしさ」をどのように表現するのかが難しい ・競技として戦うよりも、義務教育の中での部活動として、教育的な視点で関わってほしい ・クラブ活動になることで新たな費用が発生するのではないか ・人数が揃わないと部活動が成立しないのでは、結果強制になってしまふ ・教師の負担が減りながら、地域と学校がつながる機会になってほしい |